

第42回やまぐち眼科フォーラム

*日本眼科学会専門医制度生涯教育事業（認定番号：16861）

日時：2025年1月18日(土) 18:00～20:00

会場：かめ福オンプレイス

〒753-0056 山口県山口市湯田温泉4-5-2 電話：083-922-7000

会費：3,000円 ※会場にてお弁当をご用意しております

開会の辞

大西 徹 先生

山口県眼科医会 会長

【特別講演1】 18:00～19:00

◇座長◇

大西 徹 先生

山口県眼科医会 会長

「これからのドライアイ: Back to the future」

高 静花 先生

大阪大学大学院医学系研究科 視覚先端医学 寄附講座 准教授



【特別講演2】 19:00～20:00

◇座長◇

木村 和博 先生

山口大学眼科 教授

「緑内障点眼アドヒアランス維持の工夫」

谷戸 正樹 先生

島根大学医学部眼科学講座 教授



共催：山口県眼科医会 / 参天製薬株式会社

第42回やまぐち眼科フォーラム

◇演者◇

高 静花 先生

大阪大学大学院医学系研究科 視覚先端医学 寄附講座 准教授

ドライアイ診療ガイドラインが2019年に日本眼科学会誌で発刊されてから6年が経ちました。

ムチン分泌促進薬であるジクアホソルナトリウムとレバミピドの点眼薬は、日本で10年以上前から使用され、広く臨床で用いられています。今回の講演では、診療ガイドラインのエッセンスを再確認し、臨床での活用方法を探ります。

特に、眼表面の層別診断・層別治療（TFOD/TFOT）をおさらいします。また、ガイドラインを超えた現状のドライアイ臨床に即した薬剤の使用方法に加えて、ドライアイ、眼表面診療における最新情報（治療薬など）についても紹介します。明日からの診療に役立てていただける内容をお届けします。

◇演者◇

谷戸 正樹 先生

島根大学医学部眼科学講座 教授

緑内障に対する眼圧下降治療には薬物・レーザー・観血手術がある。中でも点眼薬による薬物治療が最も多くの患者に行われる。

内服薬であれば、処方通りの回数・タイミングで、処方量を服用することが、患者側の主たるアドヒアランス要因である。点眼薬による治療では、これに加えて、薬液を結膜嚢内に滴下すると言う、もう一つのアドヒアランス要因が存在する。

点眼薬の薬効を得るためには、治療に対する正しい理解（知識）と点眼技術の習得（手技）が必須要件となる。点眼アドヒアランス獲得・維持のための方法として、点眼薬の使用に特化した服薬指導（点眼指導）の重要性は高い。

緑内障は患者数も多く、また、高齢者患者の占める割合も高いため、点眼指導への対応には、医師・看護師・視能訓練士などが協力して当たる必要がある。また、アドヒアランスに依存しないレーザー治療や手術治療の導入も有効である。

本講演では、緑内障患者に見られるアドヒアランスの問題点について自験例を中心に紹介する。その上で、生涯にわたる眼圧下降治療の戦略について私見を交えながらお話ししたい。